

【戸塚区】令和2年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年9月4日 16時00分 ～ 17時50分
場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室（Web会議）
出席者	<p>【座 長】坂本勝司議員</p> <p>【議 員：5名】鈴木太郎議員、岩崎ひろし議員、伏見幸枝議員、中島光徳議員、山浦英太議員</p> <p>【戸塚区：19名】吉泉英紀区長、武井和弘副区長、里見正宏福祉保健センター長、内田沢子福祉保健センター担当部長、佐藤重義戸塚消防署長、天野実土木事務所副所長 ほか関係職員</p>
議 題	令和元年度個性ある区づくり推進費 戸塚区決算状況等
発言の 要 旨	<p>岩崎議員：洪水ハザードマップ等災害対策について、区民に必要なものや情報がしっかり届いているかどうか把握できていないように思うがどう考えているか。</p> <p>飯田総務課長：「広報よこはま」の防災関係で洪水について広報している。地域防災拠点の運営についても、8月に研修会を開催しその中で防災のPR等を行っている。</p> <p>岩崎議員：戸塚駅西口周辺の交通社会実験にて出された課題について、解決に向けた具体化や進捗はどうか。また、東口のバス混雑やタクシー乗り場の課題についての進捗はどうか。</p> <p>武区政推進課長：西口周辺については、県警やバス事業者等と調整中である。分析を進めたうえで、今年度中に改めて課題を示したい。</p> <p>東口についても、局と連携してバス事業者等との調整を進めており、年度内には方向性をお示ししたい。</p>

中島議員：地区センター、スポーツセンター、ケアプラザなど公共施設の Wi-Fi 環境の整備について、戸塚区の現状はどうか。

岩崎地域振興課長：地区センターは 6 館中 3 つの施設で Wi-Fi 環境が整っている。未設置は上矢部・戸塚・舞岡だが、戸塚は現在導入準備中、舞岡も指定管理者による設置の準備中である。

スポーツセンターは設置済みである。

コミュニティハウスは未整備だが、学校型コミュニティハウスでは学校の Wi-Fi を使っていると聞いている。

松本福祉保健課長：地域ケアプラザでは、7 館が設置済み、4 館が未設置である。また、福祉保健活動拠点フレンズも未設置である。

中島議員：各公共施設に Wi-Fi 環境があることは、防災時も含めて大事なポイント。戸塚区としても状況を把握し、推進していただきたい。

中島議員：地域防災拠点を中心とした自助・共助について、コロナ禍では分散避難が大きなポイントとなるが、これまで推進してきたマンション防災の取組が重要になる。現状と今後について伺いたい。

飯田総務課長：コロナ禍を踏まえて地域防災拠点の運営マニュアルが 6 月に改訂された。拠点の委員長あて送付済みである。また、8 月に戸塚小で研修会を開催し、実際の窓口設置のやり方等を説明している。

マンション防災については、10 月に集合型の研修を予定している。出前講座には 7 件申込みがあり、3 件終了している。

中島議員：いかに地域防災拠点に人を集めずに連携するかが大きなポイントだと思う。地域防災拠点を中心とした連携訓練を数多く実施できるように頑張ってもらいたい。

SDGs の推進について、横浜市では東戸塚商店街が SDGs 商店街を目指して取り組んでいるが、ぜひ戸塚区役所としてバックアップしてほしい。

岩崎地域振興課長：東戸塚商店街は非常に精力的に活動しており、色々な活動の中でSDGsに関しても取組みをしていると伺っているので、バックアップしていきたい。

中島議員：来年度の区づくり推進費の考え方について、コロナ禍においてもWi-Fiなど環境次第で市民活動、地域活動でできることはたくさんある。状況を確認し、環境を整える取組をしてほしい。

また、現在のコロナ禍において区民も大変な思いをされている。多くの人を集めるのは難しいかもしれないが、例えば横浜FCの区民デーとタイアップなど、区民が喜ぶ企画にも取り組んでほしい。

吉泉区長：コロナ禍において、自粛、縮小ということは、今現在は致し方ない部分があると思うが、その中でも感染対策と経済の活性化の両輪を回していかなければならない。これを念頭に、来年度の予算編成を進めていきたい。

今年度は、様々な人が多く集まる行事に関しては縮小・中止で対応したが、今後、新しい様々な知見が取り入れられ、また新しい方法も見出せると思うので、感染拡大を防ぎながらも人が集まる、絆を深められるような行事をつくっていきたい。

また、スポーツについては、健康づくり、子供の健全育成等様々な効果があるため、それを地域の活力の源としていけるよう新年度でも取り組みたい。その中で横浜FCや他の団体も含めて力を合わせて活力ある元気な戸塚を作っていくよう努力していきたい。

伏見議員：とつかの子育て応援ルーム「とことこ」について、受入対象を1歳から6か月に引き下げたということだが、預かる人数は同じなのか、枠を拡げたのか。また、6か月の子供を預かるにあたって何か用意したり、人を増員したりしたのか。

上原こども家庭支援課長：6か月からに対象を拡げるあたり、受入れ人数を増やしている。また、スタッフ1人に対して1歳未満の児童が1人、1歳以上の児童は3人受け入れる体制を取っている。また、原則として保育士が1名いること、それ以外にも看護師資格や関連研修を

修了した子育て支援員をスタッフとして設定している。コロナの影響もあり、利用は少なくなっているが、ご利用者からは安心して預けられると好評をいただいている。

伏見議員：コロナ禍で大変だとは思いますが、ぜひ安心して預けられるよう今後も取組んでいっていただきたい。

次に、美化推進事業の3R夢推進事業について、生ごみ処理機のモニター事業はコロナ禍で夏にできなかったことを11月～3月にかけて実施するというのでいいか。

岩崎地域振興課長：子供向けも含めて夏は実施できなかったが、11月以降に改めて会場を確保した。参加者の数を少し減らすか、その分回数を増やして講習会を行っていく予定である。

伏見議員：子供たちにこうした生ごみを処理する機会を設けて、少しでもSDGsや温暖化に触れてもらえるような事業をぜひ続けていっていただきたい。

次に、身近で親しみのある区役所づくり事業の職員研修について、職員の応対マナー研修はいつ、誰を呼んで行ったのか。

飯田総務課長：研修は、2月に事務処理ミス防止研修を行い、3月に2回美しい日本語で伝える力向上研修を実施した。講師は、事務処理ミス防止研修は株式会社ビタミンM、美しい日本語で伝える力向上研修は株式会社キャラウイットである。

伏見議員：対象職員と研修を受けた職員の感想を聞きたい。

飯田総務課長：対象は全課の正規職員・嘱託員等を含め全員である。正しい使い方等が身についたというような感想を頂いている。

伏見議員：こうしたマナー研修も必要かと思うので、ぜひ続けていただきたい。

山浦議員：秋葉町・平戸永谷川沿いに土木事務所が管理している市所有地があるが、ここの土地について近隣住民から様々な要望がある。今後、この市所有地が十分に活用されるように近隣住民のニーズを把握して有効活用を図っていただきたい。

武区政推進課長：今後、道路利用者・地元町内会・隣接するマンションの方等、地域のニーズを伺いながら整備後の施設の日常管理の手法を含め、広く有効活用について検討していきたい。

山浦議員：ぜひニーズを把握して前向きに検討していただきたい。

鈴木議員：山浦議員の提案に関して、まちづくりについては、行政主導で行うのではなく、早い段階から住民に参加いただき、ワークショップのような形で進めていくなど、手法の工夫をお願いしたい。

次に、新型コロナウイルス感染症対策等への活用について、コロナ禍における事業展開に係る費用で、基本的には動画を作っていくということだが、これはこれから作るのか。どこで見られるのか。

岩崎地域振興課長：スポーツ講座動画については、女子スポーツの応援や教室ができないため、各女子スポーツの3つのチームにルール説明などの動画を作成してもらった。横浜市のホームページやYouTubeにアップしており、1つのチームに3分程度のものを3本ずつ合計で9本の動画を作成した。

文化振興イベントPR用動画については、現在作成中であり、今月15日に記者発表の予定である。いきいきアートフェスティバルや区民まつりのステージ、ストリートライブなどを使った動画を作成しPRしていく。区のホームページに掲載する。

上原こども家庭支援課長：とつかおやこフェスタオンラインについて、今年度はウェブ上で健康関係のフェスティバルと、親子で体験できる、おうちでできる遊びや健康づくりのためのノウハウを伝えるような動画を作り8月6日から配信している。

樋田高齢・障害支援課長：介護予防講座については、11月に認知症予防の講演会を行う予定だが、会場の都合により定員制限で参加できない方のために講演会の状況を録画し編集して配信する予定である。

鈴木議員：リモート会議等のために必要な機材の購入とあるが、何を買ったのか、または買うのか。内訳を教えてください。

飯田総務課長：タブレット端末やZoomのライセンス料、Wi-Fi環境の整備、Web会議用のマイク等を購入する予定である。

鈴木議員：様々な行事ができない中、オンラインや動画などにより、できるだけ同じような機会を提供することは必要だが、リアルでないとできないこともある。区民まつりがなくなることにより、障害者団体の作業所で作っているものの販売だとか、何かと機会が失われているように思う。100%代わりになる機会を提供するのが難しいのは重々承知しているが、0か100かではなく間を取っていけるような工夫が必要ではと感じるが、何か考えはあるか。

樋田高齢・障害支援課長：作業所については、販売が制限され収入面で、非常に運営が困難になっていることは認識している。その中で販路をどう拡大していくかについては、作業所の職員とも一緒に工夫して考えていきたい。

鈴木議員：次に広報について、様々な広報の基本はチラシになっているが、ウェブページにPDF形式のチラシを載せても、パソコンで見ると字が小さくて見えなかったり、スクロールが必要だったりして非常に読みづらい。広報はまずWEBで作成し、それを元に紙面を作成するような発想の転換をぜひ考えていただきたい。

区役所の情報の発信についても、いろいろなところに配架したとしてもやはり紙では難しい。コロナ禍だからこそインターネットで伝わっていくことが、浸透してきている。市では、マチマチという地域SNSをやっているベンチャー企業と協定を結んでいるので、連携し、様々な情報を発信すれば広がりも期待できるのではないか。

武区政推進課長：今後研究させていただき検討していきたい。

鈴木議員：次の区づくり推進市会議員会議で進捗を確認したい。

鈴木議員：公共施設の Wi-Fi 環境の整備に関して、スマホやタブレットを使うことが難しい高齢者の方が、何かしらの形でそれらを使えるようになることは行政だけでなく公共的に意義深いことだと思う。例えば、地域包括ケアを構築するにも遠隔でつながることができたらできることがたくさんあるが、受け手が使えないため進まない。ケアプラザなどで地域の高齢者がスマホやタブレットを使えるようになる取組みを積極的に、できれば区役所が旗振りをして頑張ってもらいたい。

松本福祉保健課長：まず、未設置のケアプラザに対し、Wi-Fi を設置できないかと働きかけるのが順序かと思うが、非常に有意義だと思う。ケアプラザも様々な事業を行っている中でどこまでできるのかというものもあるが、話をさせていただき自主事業に反映できないか働きかけはしていきたい。

伏見議員：新型コロナウイルス禍における戸塚区の対応状況について、乳幼児健診の混雑を回避するため 9 月から回数を増やして実施とあるが、7 月から順次再開されていて今混雑しているから増やすのか、また 9 月からは予約で健診を受けるのか伺いたい。

上原こども家庭支援課長：乳幼児健診は 7 月から再開しているが、3 密を防ぐため来場者 70% になるよう分散化に努めている。7 月、8 月は達成できたが、9 月からは通常の回数では混雑することを予想している。それを回避するため回数を増やして実施する。今年度いっぱいはこの回数で進めていきたいと考えている。

予約制ではなく、誕生の日に合わせて、日を指定して来ていただいている。

岩崎議員：10万円の定額給付金の給付率が97%ということで報告があるが、残る3%の中には要らないから申請しない人もいれば、どうしたらもらえるのかわからない人もいると思う。残る3%の方にしっかり行き届けさせるためにどうするつもりなのか。

武井副区長：未申請の方については市民局が中心となり、7月下旬と8月下旬の2回に再勧奨を行っている。また、例えば口座がない方や本人確認書類をもっていない方への対応として、普通為替証書による給付、市民局の窓口での現金給付などの給付を行う用意もしており、申請の意思のある方が漏れることがないように手当てしている。区役所でも相談があれば、その場での対応やコールセンターの案内等対応している。

岩崎議員：市民局が中心にはなるが、区としても相談があれば、受け取れるよう寄り添って対応するという理解でよいか。

武井副区長：区としても9階の窓口で随時相談を受けている。締切りが9月10日までなので引き続ききちんと相談に対応していきたい。

坂本議員：柏尾川のトイレ整備について、前向きに検討してもらいたい。今後、区民まつりや戸塚の桜の政策を継続していくのであればトイレをしっかりと整備することも大事かと思う。

天野土木事務所副所長：トイレについては資源循環局になるので、そちらと情報共有しながら検討していきたい。

坂本議員：次に、戸塚区役所前の信号に視覚障害者の方の付加装置として、音が鳴る信号機の設置をぜひ進めていただきたい。女性参画センターの方から戸塚区役所方面へ行く際、駅まで行かないと安全に渡れないという状況のため設置していただきたいという要望を頂いている。これは安心・安全のまちづくりという観点からもお願いしたい。

	<p>武区政推進課長：設置については県警になるが、非常に重要なことと考えているので利用される方の経路などを丁寧に伺い、県警と協議を進めていきたい。</p>
備 考	